

検討会を終えて

※委員のお名前をご本人に承認の上、記載しております。

【久保委員】

今回、現地視察や検討会を通して、共存するためには、渚滑川自体の特徴を知るだけでなく、歴史、経済、文化といった地域に関する理解と連携を広範囲で行うことの大切さを実感いたしました。

先週末に、本学の留学生と研修旅行でこの近辺に来る機会がありました。留学生が流水や赤色のケショウヤナギといった自然の美しさや神秘に感動している姿を見ながら思ったことは、川や海は我々の日常生活の身近にあり過ぎて、その恩恵や重要性について考える機会を持っていないということでした。

次世代を担う子どもたちへの地域理解のための教育は、遠い未来への準備という気がしていましたが、気候変動のスピードが加速していることから、機会やきっかけ、刺激をつくり、近い未来の変化に備える広域の地域連携を進めることが、私の専門分野からできる大きな役割の一つだと感じた次第です。

【塩本委員】

私は、河川ではなくて海の専門家です。ただ、河川の仕事は海にとってとても大事であります。河川を守るということは、海を守る、特に沿岸域を守ることに繋がるからです。

渚滑川やオホーツク近辺の川を守るということは、非常に豊かな海であるオホーツク海を守ることであり、オホーツク海を守るということは、日本の水産業をこれからどうするかということに必ず繋がっていくと思います。

若い人たちが川のことを考え、それは海にも繋がるということと一緒に考えていただければいいと考えます。こういうことをコーディネートする方々は大変でしょうけれども、ご尽力いただければと思います。

私が長年関わってきたオホーツクと関わりのあるこの検討会に参加させていただき、非常にありがたかったと思っております。本当にありがとうございました。

【長坂委員】

私は、渚滑川を見に来たのは何十年かぶりで、職場に入った直後ぐらいに見たのが初めてでした。

ここはケショウヤナギのかなり貴重な分布域で、十勝のほうにあるものと遺伝的に違うということも研究で知られており、それがそのままきちんと残っています。今回、現地を見ましてそれほど危惧すべき状況ではない非常にいい川であると改めて感じました。

私は、別の委員会でケショウヤナギに対する影響やその評価に関わっており、その川はケ

ショウヤナギを保全するために、ダムからのフラッシュ放流により礫河原を再生させるなどの取組を行っています。渚滑川は自然の攪乱でケショウヤナギが残っており、自然の生態系が維持できております。

検討会では環境教育に関しても意見が出ておりましたが、渚滑川はサケが遡上する川でありますし、今日もオオワシを見てきました。川と陸との生態系の繋がりが維持されていると思います。

最近、川で掘削を行うと岩盤が出るとか、川を壊すということが危惧されます。そういうことがないように維持していただければ、非常に誇れる場所であると思います。

【根本副委員長】

渚滑川河川整備計画に携わらせていただいたことに心より御礼申し上げます。

最初に渚滑川を実際に見ることができて本当にありがたく思っております。

私自身はここで生活しているわけではないので、住民の方が感じていることやこの後に起こることを想定することはなかなか難しいことでした。そういった意味で、私が述べたことは想定を抜け切れないところがありますので、その点も含めて地域の中にしっかりと落とし込んでいただきたいと思います。

この紋別地域だけではなく、北海道内の全ての地域で人口減少に突入しており、もう止まらない状況にあると思います。同時に、インフラの老朽化が止まりません。これを踏まえると、間違いなく災害に脆弱な地域が増えていくのは間違いありません。

大規模災害は簡単に想定を超えるため、今回まとめた整備計画もその点を含めて住民に誤解のないようにしっかりご説明いただきたいと思います。

一方で、国交省の網走開発建設部を主体として、北海道、紋別市という様々な行政の皆様方としっかりと横につないでいただいて、オホーツク地域を強靱に守っていただきたいと思います。

防災教育をはじめとする地域づくりにいろいろな意味でご関与いただいて、地域の方のきっかけづくりにうまく動いていただけると、さらなる強靱化が図られるのではないかと思っております。

【吉川委員】

渚滑川の令和6年度から30年間の計画を議論する河川整備計画検討会に携わらせていただき、非常に勉強になりました。ありがとうございました。

渚滑川下流の紋別市は、ホタテやサケの全国有数の生産地であり貴重な場所です。中上流はケショウヤナギに代表される観光資源に恵まれた自然があります。私は河川の氷の研究をしていますが、渚滑川は、毎年のようにアイスジャム現象が起きるなど自然現象も特異なものを持っています。裏を返せば、全国的にも世界的にも貴重な場所であり自然に恵まれています。

人口減少や気候変動などの課題はありますが、ここには守るべき貴重な地域がありますし、次期北海道総合開発計画にある生産空間の維持、発展を進めるべき重要な場所であり、この河川整備計画がそれに寄与できると強く思いました。

この計画は現代の私たちが考えたものですが、今後30年間で時代は目まぐるしく変わっていくと思われます。そのような状況であっても過去の経験を蓄積し伝承しこの計画を実施することで、強靱な国土・地域を育むものだと考えております。

【笹木委員】

いろいろな河川で整備計画が定められていますが、河川やその流域にはそれぞれ特徴があります。

今回、渚滑川の流域の特徴と思われることについては、どの河川にも当てはまるような画一的な計画（文章表現）にはならないように、という視点を持って参加はしていました。そういう点で貢献できていれば幸いです。

渚滑川に限らずどの河川でも、「流域に住む人の高齢化や人口減少が進んでいくという状況での河川整備のありかた」「整備によって地域の交流人口を増やし地域の活性化に多少でもつながる可能性」を検討することの大切さを感じました。

【渡邊委員長】

委員長を務めさせていただきまして、いろいろところで皆様にご迷惑をかけたことと思いますが、今日に至るまで無事に務めさせていただきました。

今回の河川整備計画では気候変動を考慮していますが、今後、気候変動がどうなるか、どんな突発的なことが起こるか分かりません。渚滑川も今までは穏やかだったけれども、気候変動に伴って今後どのように変わっていくか分かりませんし、荒れ狂う川になるかもしれません。災害時に住民の方々は、こんなことは初めて経験したとか、これまではこんなことはなかったとおっしゃいます。そういう意味で、これまでの経験をいかにつないでいくか、流域住民の方々の意見をどうつないでいくかということと、他の川で起きていることも踏まえて、北海道開発局の皆様には河川整備に邁進していただきたいと思っています。

私は、これまで多くの川を見てきましたが、渚滑川ほど優しい川はないと思っています。ケショウヤナギやオオワシ、様々な鳥類、自然環境が非常に豊かであるということで、本当にフレンドリーな川という印象がありますので、その印象をさらに広げて、地域の方々とよりよい渚滑川をつくっていただければと感じました。

検討会ではいろいろ考えてきたことをご意見させていただきました。本当にありがとうございました。